

「高額療養費」の上限額が変更されます

1カ月に支払った医療費が高額になり、決められた上限額を超えた場合、申請により超えた分を「高額療養費」として支給します。

この「高額療養費」の上限額について、8月から下記のように変更されます。

適用区分		外来+入院 (世帯ごと)		外来+入院 (世帯ごと)	
		外来 (個人ごと)		外来 (個人ごと)	
現役並み	課税所得 145万円以上の方	44,400円	80,100円 + (医療費-267,000円) ×1% 《多数回44,400円》 ※2	57,600円	80,100円 + (医療費-267,000円) ×1% 《多数回44,400円》 ※2
			44,400円		57,600円
一般	課税所得 145万円以上の方 ※1	12,000円	44,400円	14,000円 《年間上限 144,000円》	57,600円 《多数回44,400円》 ※2
			44,400円		57,600円
住民税非課税	Ⅱ 住民税 非課税世帯	8,000円	24,600円	8,000円	24,600円
	Ⅰ 住民税 非課税世帯 (年金収入 80万円 以下など)		15,000円		15,000円

- ※1 世帯収入の合計額が520万円未満(1人世帯の場合は383万円未満)の場合や、「旧ただし書所得」の合計額が210万円以下の場合も含まれます。
- ※2 過去12カ月以内に3回以上上限額に達した場合は、4回目から「多数回」該当となり上限額が下がります。

いつまでも自分の歯で健康な生活を

高齢者の歯の本数や状態を審査する

「いい歯☆キラリ☆番人の歯コンクール」を開催しました

6月14日、「いい歯キラリ番人の歯コンクール」が山村開発センターにおいて開催され、満70歳以上の町民24人が参加しました。

このコンクールは、町が榛原歯科医師会の協力を得て、厚生労働省と日本歯科医師会で行っている「8020運動」(80歳になっても20本以上の自分の歯を維持するキャンペーン)の一環として毎年開催しているものです。

当日は渡辺歯科医院の渡辺克也歯科医師に審査員をお願いし、金の部(80歳以上)銀の部(75歳から79歳)、銅の部(70歳から74歳)の各部門に分かれて審査を行いました。

各部門の第1位は、金の部 兼松あや子さん(徳山区)、銀の部 山本綾子さん(梅高区)、銅の部 長嶋忠さん(徳山区)が輝きました。

審査終了後は、渡辺歯科医師から「歯の根元のむし歯について」の講話を聴き、フッ化物洗口の体験も行いました。



平成29年度 いい歯 キラリ 番人の歯コンクール

審査結果

*敬称略
(年齢は平成29年4月1日現在の満年齢)

金の部

- 第1位 兼松あや子 (85歳)
第2位 山下 勇 (80歳)
第3位 徳嶋百合江 (80歳)

出場者9名全員の方が
8020を達成しました。

奨励賞

- 嶋 とし (86歳)
長濱 辰巳 (84歳)
小西 學 (84歳)
大村 哲男 (81歳)
高木いつよ (81歳)
高橋 一郎 (80歳)

銀の部

- 第1位 山本 綾子 (77歳)
第2位 高本 親義 (79歳)
第3位 花村 昇 (75歳)

出場者10名全員の方が
7520を達成しました。

奨励賞

- 澤口 市衛 (79歳)
長嶋 虎雄 (79歳)
坂本 つね (79歳)
太田ルミ江 (77歳)
高木 茂明 (77歳)
佐藤 福美 (76歳)
市川 功 (75歳)

銅の部

- 第1位 長嶋 忠 (72歳)
第2位 山中きよ子 (74歳)
第3位 山本 元子 (72歳)

出場者5名全員の方が7020を達成しました。

奨励賞

- 梶山恵美子 (72歳)
竹本 睦 (70歳)

町内小学生が

「全国小学生歯みがき大会」に

参加しました

町内小学校4校の4・5・6年生77名は、「全国小学生歯みがき大会」(歯と口の健康教室)に参加しました。

町では榛原歯科医師会とともに、幼児・小学生を対象とした「歯科講座」(講師：ライオン歯科衛生研究所)を昨年度まで実施していましたが、今年度はこれに代わり、町内小学生が本大会へ参加することとなりました。

全国小学生歯みがき大会は、小学生の歯と口に対する健康意識を育むことを目的に毎年「歯と口の健康週間」(6月4日～10日)にあわせて開催され、今年度は日本国内とアジア各国あわせて16万人の小学生が参加しました。

大会では、DVD教材や実習を通して歯と口の健康について楽しく学び、自分の歯並びに合わせた歯のみがき方やデンタルフロス(糸状ようじ)の使い方を身につけました。小学生の時期に良い歯みがき習慣を身につけることは、

子どもたちの一生涯の健康づくりに大きく影響します。子どもたちは、今の自分の積み重ねの先にいる未来の自分に向かって「将来の夢」や「なりたい職業」などの未来宣言をし、将来の自分のために望ましい生活習慣をつけることの大切さ、またその習慣を継続することが大きな力になることを学びました。

